

■ 突然動かなくなったパソコン、

突然動かなくなる体

修正： 2018.03.01

投稿： 2018.03.01



●突然動かなくなったパソコン、突然動かなくなる体①

突然パソコンが動かなくなってしまいました。

昨日まで普通に起動していたものが、ある日、
朝になって起動させようとする、うんともすんとも言わず、
もう二度と起動することはありませんでした… (>_<)

バックアップは取ってあったので、
内部のデータは無事だったのですが…。

もしこれが体なら「死」です。

そんな風にして、私もあなたも、
いつかは死ぬ時がやってくるのでしょうか。

パソコンと違って、
肉体にはバックアップという概念はありませんから、
今のこの体が壊れてしまえば、それで「おしまい」です。

思えば、パソコンも、冷却ファンが壊れたり、
内蔵ハードディスクが不調をきたしたりと、
徐々にではありますが、各パーツは壊れていっています。

同様に、私たちの体も、筋力が衰えたり、
足腰が痛くなったり、目が見えづらくなったりと、
徐々に死に向かって進行しています。

そうしていつかは死にゆく体であるにも関わらず、
苦しみながらも生きていかなければならない、となれば、

「なぜ生きなければならないのか？」

「生きることにいったい何の意味があるのか？」

といった疑問も出てくるのではないのでしょうか。

(続)

//=====//

●突然動かなくなったパソコン、突然動かなくなる体②

「生きる意味」と聞くと、

「考えても答えの出ない問いかけ」と思われがちですが、

考え続ければそれなりに答えは出るはずですが。

もし「生きる意味なんて無い！」と言うのであれば、

なぜ「無い」と言い切れるのでしょうか？

「生きる意味が“無い”」ことと、

「生きる意味を発見でき“ない”」ことは、まったく違うはずですが。

(発見すると言うよりも創り上げる？)

ちょっと考える対象を変えてみて、

「パソコンが動く意味」であれば何でしょうか？

「生きる意味が無い」なら

「パソコンが動く意味も無い」のでしょうか？

パソコンも肉体も、いつかは壊れる運命です。

「それでもなぜ生きるのか？」「生きる目的とは何なのか？」

この疑問こそ、誰もが人生の早いうちから考え、

答えを見出していかなければならない問いかけでしょう。

なぜなら、人生の苦楽を決定づけるのは、

年取でも、人間関係でも、生まれた時代でもなく、

(人生の)目標が明確であるかないかだからです。

受験生が一生懸命、受験勉強に励むのは、

「志望校への合格！」という明確な目標があるからです。

もし志望校に入ることを目標にしていれば、

入学後には燃え尽きてしまうことでしょう。

「目標に向かって進んでいる」という意識があれば、

どんな苦行も快樂に感じられます。しかし、目標を見失った瞬間、

どんなに楽しかった仕事も、苦しいだけの作業となります。

そうして、憧れだった会社を早々に退職してしまう人が多々います。

改めて、あなたの「人生の目標」とは何でしょうか？

(続)

//=====//

●突然動かなくなったパソコン、突然動かなくなる体③

突然、パソコンが壊れるように、

突然、人生最期の日はやってきます。

「明日がある、明日がある、明日があ〜る〜さ♪」

と歌われているように、誰もが

「明日はある！」と信じて生きています。

ですが、今日死ぬ人からすると、「死」とは

明日よりも身近な存在だったと言えるでしょう。

昨日まで元気だったあの人が、今朝になっても目を覚まさない、

来るはずの明日が永遠に来なくなる、これが「死」です。

ボタンを押したら、
つくはずだったパソコンがつかせませんでした。

「あれ？起動し…ない…。あれあれ？」
と何度かボタンを押して、ようやく、
「パソコンが死んだ」ということに気がきました。

まさか、今文字をタイプしているこのパソコンが、
「明日には動かなくなる」なんてことは想像できません。

まさか、今文字をタイプしているこの私が、
「明日には動かなくなる」なんてことはそれ以上に想像できません。

集客が上手くいかず悩んでいる人も、
開発が思うようにいかず試行錯誤している人も、
「**明日がある！**」という前提で苦しんでいます。

営業で成績が振るわず四苦八苦している人も、
「あーあ、明日のテスト、なくならねーかな～」と言っている人も、
「**明日がある！**」という前提で苦しんでいるのです。

しかし私のパソコンはもう起動しなくなりました。

次は「**この私**」の番かもしれませんし、
はたまた「**あなた**」かもしれません。

(続)

//=====//

●突然動かなくなったパソコン、突然動かなくなる体④

日本では、**毎年約 120 万人**の方が命を落としています。

1日で平均すると、約 3300 人です。分布を無視すれば、
次の1年間を生き抜ける確率は99%になります。

決して100%ではないこの99という数字に、
死を意識させられないでしょうか？

「99%？ な～んだ、意外と大丈夫じゃん！（*´▽´）」
と思う人もおられることでしょう。であれば、
「100人集まった中からルーレットで1人の生贄が選ばれる」
と考えてみてはどうでしょうか？

「100人の集まりの中から毎年毎年誰かが死ぬ」

と言えばホラー映画のような印象を受けますが、**現実**です。

ただ、このように説明しても、実感は湧かないとは思いますが。
と言うのも、死が近い人というのは、年寄った人や
病を患っている人であって、健康な人はそうではないからです。

去年、死にかけた体験をしなかった以上、
おそらく今年も、これまで通り平穏に過ごせるだろう、
と楽観視するのは至極当然なことです。

そうして、「確率的には1日約3300人が亡くなります」と聞いても、
「今日も(自分以外の日本人が)3300人ほどいなくなるのか…（*´Д`）」
と、いつでも「**自分は蚊帳の外**」のように考えてしまうものです。が、

自分がどれだけ安全運転に徹していても、
対向車が突然突っ込んでくるかもしれませんし、
ただ道を歩いていただけなのに、
知らない人にいきなりナイフを突きつけられるかもしれません。

不慮の事故は何かと突然起こるものです。

ある日突然にして 1%側の人間になってしまうものなのです。

(続)

//=====//

●突然動かなくなったパソコン、突然動かなくなる体⑤

重い話題なので、4回にわたって説いてまいりました。

つまるところ、日本では、

約 30 秒に 1 人が亡くなっている計算になります。

「もしかしたら次の 30 秒で

この世を去ることになるのは私かもしれない…」と、

己の死を意識して初めて見えてくる人生観もあります。

「来る日も来る日も…今日が自分の人生最後の日だとしたら…」と

スタンフォード大学の卒業式でスピーチしたジョブズ氏でしたが、

彼にもその日はやってきたわけであり、

人生最後の日、彼は何を思って去っていったのでしょうか。

満足でしょうか、後悔でしょうか。何にせよ、

「もうやり残したことはない！」と思いながら立ち去れるなら、

それが何よりでしょう。

この「これさえやればもう他はいい！」と思えることこそが、

「人生の目標」に相当するものであり、これこそ、日々考え、

日々取り組んでいかなければならないこと、ではないでしょうか？

となれば、「生きる意味」や「生きる目的」は人それぞれ、

ということになります。「これさえやれば満足！」というものは、

人によって違うからです。

他ならぬ「この私」が生きる意味とは何でしょうか？

「これさえやれば満足！」と言える**「これ」**とは何でしょうか？

長くなってきましたので、一旦、このへんで切ります。

最後に、この言葉で締めたいと思います。

「今日を眺めると、やらなければならないことが見えてくる。

人生を眺めると、やりたいことが見えてくる。」

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)